



歴史が **ぎゅっ** と詰まった堅田衆のまち

湖都大津 堅田

景観ガイドマップ



堅田の歴史

堅田は平安時代から京都賀茂御祖社(下鴨社)に鮮魚を献上する御厨(みくりや)となり、朝廷から琵琶湖の漁業権と自由通行権を保証されたことなどから湖上交通に絶大な力を発揮してきた町です。

下鴨社の供祭人である殿原衆(とのぼらしゅう)は堅田衆とも呼ばれ、堅田の政治・経済を指導し、湖上交通の主要な地位を維持し続け、宮座(現在の伊豆神社)を中心に団結しながら「堅田千軒」と呼ばれる近江最大の自治都市を築き上げました。

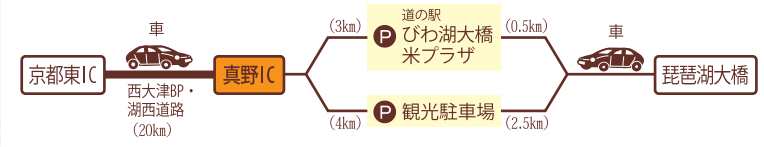
15世紀後半に延暦寺による焼き討ちに会いますが、町衆の手により復興を果たし、この時期に湖岸に石垣を巡らし、掘割りや船入り、町筋を整備するなど、今の堅田の町の基礎が形成されました。

江戸時代になり堅田の諸特権は弱められましたが、漁業・水運の拠点としての地位を保ち続け、大津、八幡とともに「諸浦の親郷」と呼ばれ湖上交通を主導しました。

このように経済的な豊かさを背景として、茶道や俳諧などの文化が花開き、また近江八景の「堅田の落雁」で知られる浮御堂(満月寺)をはじめとする由緒深い寺院や神社が核となった特色ある町並みを形作ってきました。

琵琶湖に育まれた堅田の歴史と文化を、町を歩き、あるいは湖岸に望んで感じて頂きたいと思います。

堅田へのアクセス



発行元：大津市都市計画部都市景観課

☎ 077-528-2956
 ✉ 滋賀県大津市御陵町3-1
 📧 otsu1313@city.otsu.lg.jp

景観の特徴

浮御堂で有名な満月寺、一休禪師が修行した祥瑞寺、蓮如上人や芭蕉所縁の本福寺、堅田の総鎮守に位置づけられる伊豆神社など、町には多くの神社・仏閣が見られます。

また、本堅田では天然図画亭(琵琶湖と三上山を借景とした庭園)を有する居初家をはじめとする伝統的な町家建築が建ち並ぶ町並みを、また今堅田では重厚な伝統的農家建築が建ち並ぶ町並みを楽しむことができます。

さらに、道筋のあちらこちらに地藏堂・祠・常夜灯などが見られるなど、町を歩くほどに歴史が伝わってきます。



伊豆神社参道



歴史的町並み(商店街)

水を感じるまち

堅田はかつて周囲を堀(環濠)で囲まれた4つの「切(きり)」に分かれ、堅田四方(しほう)と呼ばれていました。現在も町の中には琵琶湖や堅田内湖に繋がる掘割りや水路が巡っており、堅田の町を歩くと、様々なところで水を感じることができます。

橋も多く、橋の上から、琵琶湖、内湖や水路で彩られた景観を望むことができます。

また、琵琶湖近くの道筋を歩いていると、建物と建物の間に細い路地が湖に通じており、建物の間から琵琶湖を覗き見することもできます。

さらに、堅田漁港に望むと、湖とともにある暮らしが現在もまだ続いていることを実感できます。



通路から琵琶湖を覗き見る



橋の上から水路を望む

歴史あるまち

湖岸から望む景観

堅田は琵琶湖とともに発展してきた町です。湖岸に立てば琵琶湖を含む様々な景観を楽しむことができます。

湖岸に連なる石垣、その上に鎮座する地藏様、湖を借景としてつくられた庭など、昔からの琵琶湖とともにある暮らしを感じることができます。

また、現在では琵琶湖岸には遊歩道や緑地が整備されており、そこではゆっくりと琵琶湖に対峙し、ヨシ原が広がり、水鳥が集う水辺の自然景観、三上山(近江富士)をはじめとする湖東の山並み、背後に迫る比良の山並み、さらには琵琶湖大橋などを望む雄大な景観を満喫することができます。



居初家天然図画亭



対岸の三上山を望む

まちのシンボル

近江八景の一つ「堅田落雁」で有名な浮御堂、明治時代に建てられ、現在市の有形民俗文化財に指定されている出島灯台は、堅田のシンボリックな存在です。いずれも景観重要建造物に指定されています。



浮御堂



出島灯台

季節や時間の風景

桜に彩られた水辺、朝日に照らされる琵琶湖など、特定の季節や時間にしか見ることができない特別な景観があります。



おとせの浜の桜並木



内湖に沈む夕日